

第12回 実験結果発表会・グループ討論会

今回の目標	自分の実験結果を他人が理解できるように、プリントや液晶プロジェクターを利用して、発表する。 実験結果についてグループ討論を行い、他人の意見を参考にして、自分の理解をさらに深化させる。
今回の提出物	討論会の内容をまとめたレポート（7月22日締め切り）

実験結果発表会

1. 発表用レポートについて

実験結果について各自 A4 のレポート用紙 2 枚でまとめる。結果に使うデータは作物学実験で得たデータすべてを使う必要はない。目的および結論から照らし合わせて、発表しなければならないデータだけを厳選して発表したらよい。

目的、材料と方法、結果と考察、図表をマイクロソフト社ワードで書いて提出すること。フロッピー、CD あるいはメールに添付してファイルを提出すること。締め切りは 7 月 1 日とする。提出するフロッピー、CD にはきちんと名前を必ず記入すること。出力した原稿も提出すること。PDF ファイルに変換して発表用レポートをホームページで公開する。名前をホームページ上で出たくない人は名前をワードファイルに入れなくてもよい。

2. 発表について

各自が提出したレポートおよび液晶プロジェクターによるプレゼンテーションを利用して、全員にわかりやすいように発表する。発表ではカラー印刷した B5 のポスターあるいはマイクロソフト社パワーポイントによるプレゼンテーションによって、視覚的に理解しやすい発表を行う。自分がどこに注目して、この実験を行ったのか。目的を達成するためにどのような処理を処理区のポットに与えたのか。図表を利用して、結果がどのようなになったのか？その結果からなにがわかったのか？結論は何かをわかりやすく発表する。

日時……7月3日

発表時間……3分

発表順……名簿の順番

座長……次の発表者

発表は名簿順に行い、次の発表者が座長を務める。全員が積極的に討論に参加し、1人1回は質問すること。

発表に使うもの

結果のレポート A4 のレポート用紙に 2 枚。7月1日締め切り。製本して当日、全員に配る。

プレゼンテーション B5 の紙に 2 枚程度、わかりやすい説明を書く。この紙を液晶プロジェクターの書画カメラをつかって、スクリーンに投影し、発表の資料とする。書画カメラの性能上、微妙な色合いは再現できない可能性が高いので、色は原色を使う方がよい。ただしたくさんの色を原色で使うのはあまり見た感じはよくない。発表後、裏に氏名を記入の上、提出すること。

プレゼンテーションでは希望する学生はマイクロソフト社パワーポイントで発表してもよい。パソコンはこちらで用意する（ただし Windows のみ）。パワーポイントは XP のバージョンまで対応できる。時間が 3 分と短いので、スライドショーに使うスライドは 3 枚程度に抑えること。授業が始まる前にファイルをパソコンに転送する。この転送ファイルで発表をする。ハードディスクに残されたファイルが提出ファイルとなる。

3. 発表の心得

発表で大切なことを以下、箇条書きで述べる。

一番大事なことは必ず伝える

発表者が伝えたいことはたくさんある。しかし、聞いているものはたいていいくつかの発表を1日のうちに聴くから、たくさん情報を送り込まれても消化できない。発表者は聴衆に一番伝えたいことが何かを明確に認識し、それさえ確実に伝わればよいというぐらいの気持ちで発表すること。

そのためには発表の準備段階で自分の発表で一番重要なことは何かを常々考え、それをもっとも効果的に伝えるにはどのように発表したらよいかを考えるはずである。どんなときも一番大切なものは何かと考える姿勢が大切である。このように常々一番大事なものが何かと考えておけば、よけいなもの、それほど大事ではないものに時間を奪われる可能性も少なくなる。

最初に一番大事なことを伝える

聴衆ははじめわりあい注意深く聴くが、しだいに注意力が低下し、発表の後半ではよほどその発表に関心がない限り、ほとんど聴いていない状態になるものである。したがって、発表の最初、すなわち聴衆の関心があるときに一番大事なことをいっておくべきである。

視覚的にわかりやすい発表を心がける

人間の脳のかかなりの部分が視覚的認識に使用されているように音声だけで（それも声だけ、特に日本語は外国語と比べてさらに音が単調である）説明するより、視覚的に説明すると、わかりやすくなる。また、聴衆の興味も長続きする傾向にある。できる限り、カラーで視覚的に説明することである。このときプリントを配って、それをみながらするよりも、スクリーンに図表を写して説明する方がわかりやすい。これは発表者と聴衆が共通のものを共有できることが大きい。

このような視覚的プレゼンテーションでの注意をひとつだけあげる。1枚の図には伝えるべき情報は1つだけを入れること。たくさんの情報を1つの図に詰め込んではいけない。

質問をおそれるな

初めて発表するときはどうしても質問されることをおそれる。そのこと自体は人間のもつ性質であるが、次のことを考えて、質問へのおそれを克服し、質問がたくさんきたら、自分の発表がうまくいったのだと感じるように意識を改革しよう。

質問のない発表はその発表が完璧であるからではなく、質問するほどの興味を聴衆に起こさせないほど内容がつまらないか、発表が下手で聴衆に内容が伝わらないかのどちらかが原因である。一方、質問の多い発表は聴衆に内容がよく伝わり、興味を引きおこしたものである。質問されたら、質問の中の有益な意見はその場でメモしておくべきである。

グループ討論会

1. グループ討論会について

全員の発表が終わった後、8人程度からなる班をいくつか作り、今回の実験結果発表会についてグループ討論会を約1時間程度行う。班のメンバーは、実験のテーマの近いものが集まるようにこちらから指定する。討論のテーマもこちらが指定する。

班の中から1名、座長（司会進行）を決める。座長は討論のテーマに沿った議論ができるように円滑に議論を進めるようにつとめる。メンバーはできる限り積極的に討論に参加すること。

2. 討論、議論の意味

「三人寄れば文殊の知恵」というように、1人で考えるよりも複数で一緒に考えた方がよい結果が出ることが多い。政治的な議論のように相手を論理的に打ち負かさなければならない議論もあるかもし

れないが、多くの議論はよりよい結論を得るためにみんなで知恵を出し合って考えることである。このように討論、議論は相手を口で打ち負かせるのではなく、みんなで考えることなのである。もし討論で相手をすべて打ち負かせたというならそれは喜ぶべきではなく、貴重な時間を費やして自分のものの考え方が少しも進歩しなかったことを嘆くべきである。討論で少しでも自分のものの考え方が進歩したと実感できたなら、その討論は自分にとって実りあるものだと考えたらよい。議論に負けることをおそれてはいけない。自分の思考が発達することを目的としたらよい。議論に勝とうとするものは議論の本来の役割を知らないだけである。

以下箇条書きで討論、議論で考えるべき点を述べる。

自分の意見を積極的にいう

自分の意見をいうのはむずかしい。それを正確に相手に伝えるのはかなりの討論の経験をもった人でも難しいことである。いきなり自分の意見を正確に伝えるようにはならない。しかし自分の意見を積極的に言うことは、自分の考えをまとめることにもつながる。頭の中だけでかんがえているよりも口に出したり、文章にしたりすることで、自分の考えが明確な形となっていくものである。まずは人にうまく伝わらなくてもよいから、自分はこう考えるといってみよう。そうするだけで自分が気づかなかったことに自分で気づくこともある。あるいは他人の指摘も得られるだろう。それだけで大きな進歩である。

他人の意見を正確に理解すること、さらによりよい意見を引き出すこと

司馬遼太郎は聞き上手になれと無名時代に書いた本でアドバイスした。聞き上手とはただ単に他人の意見を正確に理解することだけではない。他人の意見を正確に理解することも難しいことではある。しかし、他人の行っていることを正確に理解し、適切な応答をすることで、さらに高いレベルの意見をその人から引き出すことが可能である。討論することでお互いにふだんは自分だけでは考えもつかないことさえも考えられるようになる、すなわち $1+1$ を 2 以上にできれば、その討論は大成功である。

このように実りある討論にしようとするれば、自分の意見を相手にわかりやすく伝えること、相手の意見を正確に理解し、さらによりよい意見を導くことの両方とも実現する必要がある。

グループ討論会をうけて作成するレポート

自分なりにグループ討論会での討論をまとめ、A4 のレポート用紙を使って、2000 字程度にまとめる。締め切りは 7 月 22 日とする。レポートのはじめには討論に参加したメンバーの名前と座長を書く（これは字数には含めない）。マイクロソフト社ワードで書いて提出すること。フロッピー、CD あるいはメールに添付してファイルを提出すること。締め切りは 7 月 22 日とする。提出するフロッピー、CD にはきちんと名前を必ず記入すること。出力した原稿も提出すること。2000 字程度という字数制限は 10% 程度の増減が許容されるとふつう考える。したがって、1800 ~ 2200 字 の範囲に入るようにする。なおワードで字数を数えるにはツール→文字カウントを使う。文字数を数えたい範囲を選択したあと、文字カウントをするとその範囲の字数を数える。何も選択しないで文字カウントすると文書全体の字数を数える。レポートを出す前に字数を必ずチェックすること。

レポートでは、討論のテーマを自分が最初どう考えていたか、討論の結果、どのように考えるようになり、自分の考えが進歩したかを中心に書く。とくに自分の意見と食い違う意見があれば、それを取り上げて書いた方がよい。なぜなら、自分と同じ意見が多いというのであれば、討論した結果、自分の考え方が進歩しないからだ。意見が違うことは決して悪いことでなく、それは自分の考えが飛躍するチャンスと考え、レポートでも○○君と意見が一致したということは書かずに、○○君と について意見が対立した、その結果、新しい見方ができたと書く方がよい。

グループ討論会の内容をメモしよう

討論のテーマ：

班のメンバー：

自分の発言内容：

他の班員の発言内容